

## 苦戦が続く錦織選手

盛田 常夫

### 今年のテーマ

チーム錦織の今年の目標は、全仏オープンでの優勝である。錦織のプレーは球足の速いハードコートに向いており、本人もハードコートでのグランドスラム優勝を目標にしていた。しかし、ハードコートは体を痛めやすいし、剛球サーブを打つ若い選手のストロークが格段にうまくなっているから、ハードコートで錦織が簡単に勝ち進めるとは言い難くなってきた。だから、チーム錦織のコーチたちは、ストローク力で押す錦織のプレーは、クレー（赤土）のコートでより活きると考えた。コーチのチャンが全仏のタイトルを獲得していることも、チーム錦織の目標転換に影響している。

この方針転換で、今年は全豪の後、ハードコートでの北米の試合を回避して、南米の赤土コートの大会を選んだ。日本で行われたデヴィスカップ世界グループ 1 回戦の対フランス戦を欠場し、万全を期して臨んだのが、2月のアルゼンチンとブラジルの大会である。ブレノスアイレスの大会は優勝が 250 ポイント、リオの大会のそれは 500 ポイントである。

この両大会とも、トップテンの選手は、オーストリアのティームを除き、誰も参加していない。そのティームもリオからの参戦である。本戦出場のほとんどの選手のランキングは 50 位から 150 位である。ふつうに戦えば、両大会優勝で 750 ポイントが獲得できる。錦織選手もそれを狙っていた。

### 赤土コートも簡単ではない

同じ赤土コートと言っても、土の固め方で球のバウンドや球速は変わる。ブレノスアイレスのコートは柔らかく整備されているように見えた。球の弾みが大きく、ボールの頂点で球を捉える錦織選手は飛び上がるようにして、球を打っていた。弾みが大きいコートはスピン系の打球を打つ選手には良いが、速い球で勝負する錦織選手のプレースタイルには不利である。それでも、3回戦の対ソーサ戦では、高い打点から深い打球を配球して、相手のミスを誘い、ほぼ完璧な勝利を飾った。しかし、この試合以外は、ソーサ戦で見られた果敢な攻めは影を潜め、相手のストロークに押される場面が多く、かなり苦戦した。

アブレノスアイレス大会でのチーム錦織の誤算は、準決勝の対ベルログ戦がもつれたことだ。クレーのスペシャリスト相手に、3時間近い戦いを強いられた。他方、もう一つの準決勝で、ドロゴポロフは 69 分で相手を葬ってしまった。錦織がかなり体力を消耗したのにたいし、ドロゴポロフは楽勝で翌日の決勝に進むことができた。

土のコートは足腰への衝撃が小さいので怪我のリスクは小さいが、脚力が要求される。柔らかいサーフェイスでは足の踏ん張りが必要になるからだ。体の小さい錦織がしっかりと足を踏ん張って打球に対処できなければ、ストロークの正確性に狂いが生じ、ストローク力が落ちる。

負けたことのない、お得意様であるはずのドロゴポロフに2セットで押し切られたのは、前日戦いの疲れで、ここ一番と言う時に、足の踏ん張りが利かなかったからである。

## 1 回戦負けのリオ・オープン

ブエノスアイレスの土曜日の準決勝は2時間40分、日曜日の決勝戦が1時間40分の試合時間だった。そこからリオに移動し、中1日の火曜日に、これもクレーのスペシャリストであるベルッチとの対戦を迎えた。

出足は何の問題もなかったが、第1セットでサーヴィスゲームを落としてから、ストロークが甘くなった。返球が浅く、錦織得意のダウンザラインの打球がほとんど見られなくなった。他方で、ベルッチは思い切ったストロークで、錦織選手のお株を奪うようなストロークを展開した。サーヴィスの威力も十分で、第2セットでサーヴィスゲームを1ゲーム落としたただけだった。サーヴィスゲームを3度落とした錦織が1回戦で負けたのは久しぶりだが、負けるべくして負けた試合内容だった。足が突っ立ち、腰が座っていない打球は相手コートに浅く入り、それを強烈に打ち返される光景が繰り返された。明らかに、この試合のフィットネスができていなかった。週末の2戦の疲労から、打球は勢いを失っていた。

同じような光景は、昨年のリオ五輪直後のシンシナティ・オープン（マスターズ1000）3回戦、対トミック戦でも見られた。2セットともタイブレークで敗れたが、五輪の疲れで足の踏ん張りが利かず、簡単なミスを連発して負けてしまった。この大会ではリオ五輪の激戦を勝ち抜き、金メダルを獲得したマリーが、五輪の疲れを物ともしないスタミナで優勝を飾った。錦織選手とは、明らかに体の強さが違う。

錦織選手のコーチたちは、「圭に不足するのはメンタルな部分だ」というが、そうではない。錦織選手に不足しているのは、「体の強さ」だと断言できる。3セットマッチでこれほど疲れるのなら、とても5セットマッチで行われるグランドスラムの第二週（4回戦以降）で戦えない。

体の大きさは仕方がないとしても、体の強さは鍛えることができるはずだ。この問題を解決しない限り、グランドスラム大会優勝を語る以前に、マスターズ大会での優勝もままならない。錦織選手がビッグフォー時代を終わらせ、トップスリーに定着する条件は、フィジカルな強靭さを獲得することだ。